



年 組 名前

道新でワークシート

今期 日本海スルメイカ不漁か

国立研究開発法人水産研究・教育機構日本海区分水産研究所(新潟)は、5～7月に日本海沿岸で行われるスルメイカ漁の見通しを発表した。来遊量は不漁だった「前年並み」と予測しており、専門家からは道内の漁も「期待できない」との見方が出ている。

同研究所が2018年10～11月に鹿児島県沖～鳥取県沖計79地点で行った幼生(稚魚)分布調査によると、1調査地点当たりの幼生平均採集匹数は、前年同時期(0・12匹)とほぼ同水準の0・17匹で、過去5年平均の0・65匹を下回った。

また、4月12～20日に鳥取県沖～新潟県沖の40地点で実施した採集調査では、1調査地点当たりの平均採集匹数が24・1匹にとどまり、前年(39・9匹)と過去5年平均(42・4匹)をとると下回った。

5～10月の日本海スルメイカ漁は、6月に解禁される道内のスルメイカ漁も含めて、前年秋から冬にかけて生まれた「秋季発生系群」が漁獲される。同研究所は調査結果を受け、スルメイカの来遊の見通しについて「過去5年平均も下回る厳しい状況」と説明する。

イカの生態に詳しい桜井泰憲北大名誉教授も「日本海沿いに道南へ回遊する」来遊数は少なく、漁はあまり期待できない。ルートは松前沖よりも沿岸を通過して北上するだろう」との見方を示している。(田中華蓮)

2019年5月9日(木) 朝刊 全道選版 総合1面

①スルメイカ漁の漁獲の見通しについて書いた次の文の空欄に入る語を本文中から探さない。

日本海におけるスルメイカの が例年に比べて少ない。

②鳥取県沖～新潟県の40地点で実施した採集調査について答えなさい。

(A) 4月12～20日に実施した平均採集匹数に最も近い値をA～Fから選び記号で答えなさい。

(B) グラフの☆で示された直線が表す値を本文中から6字で書き抜きなさい。

